

令和5年度 学校評価書(共通) 前期

校名 宇和島市立住吉小学校

1 自己評価書

教育目標						
じっくり考え、自分の力でたくましく生き抜く児童の育成						
基本方針						
コミュニティ・スクールを推進し、地域の学校支援体制を構築しながら「知」「徳」「体」のバランスのとれた子どもを育成する。						
本年度重点目標						
1 コミュニティ・スクールの推進 2 基礎・基本の定着と活学力の向上を目指した確かな学力の育成 3 一人一人を見つめる生徒指導の充実と人権教育の推進 4 健康でたくましい体の育成 5 特別支援教育の充実 6 防災・安全教育の推進						
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
確かな学力の定着と向上	① 全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	自校のねらいに沿って、各調査を分析し、成果と課題を把握し、具体的な対策を講じた。	・分析資料の作成	B	B	
			・具体的な対策の実施	C		
	② 授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。 ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。 一人1台端末(iPad)及びEILS(えひめICT学習支援システム)を積極的に活用し、個に応じた新しい学びのあり方の推進に努めた。	・教師アンケート	B	A	
			・保護者アンケート	A		
			・児童生徒アンケート	A		
	③ 家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート	B	B	
			・保護者アンケート	B		
			・児童生徒アンケート	B		
	④ 読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート	B	B	
			・保護者アンケート	B		
			・児童生徒アンケート	B		
	⑤ ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート	C	B	
			・保護者アンケート	B		
			・児童生徒アンケート	A		
	<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを使った活動を積極的に取り入れることにより、児童のICT活用技術や学習意欲が高まった。また、個に応じた家庭学習・補充学習を推進することができた。 ・各種調査結果の分析は適宜行ったが、対策を講じることは至っていない。 ・授業において、ねらいの提示は出来ているが、振り返りについては時間の確保や方法について課題がある。 ・地域教材を生かした学習は活性化しつつあるが、ESDの推進については取組が不足している。 <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業始まりの5分間復習タイムやICTの効果的な活用により、各教科の基礎基本の定着を図る。 ・週に1回、朝学習タイムや補充学習で個に応じた算数科の課題に取り組みさせることにより、算数科の学力向上を図る。 ・5分間読解ドリル、話す聞くスキルの継続により、伝え合う力の向上に努める。 ・学校支援ボランティアの読み聞かせや読書週間の様々な取組により読書活動への意欲を喚起し、読書活動を充実させる工夫を行う。 ・ESDの視点を総合的な学習の年間指導計画や単元計画に明記し、計画的に取り組む。また、その内容を学校運営協議会で熟議し、地域の教材や人材に関する情報収集を行うとともに、育成を目指す資質・能力について共通理解をする。 					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
生徒指導の充実	① 規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	C	B	
			・保護者アンケート	B		
			・児童生徒アンケート	B		
	② 児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。 不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。 いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート	B	A	
			・保護者アンケート	A		
			・児童生徒アンケート	A		
	③ 基本的な生活習慣の徹底	基本的な生活習慣の確立に向けて、家庭との連携・協力の下、学校全体で組織的に取り組んだ。	・教師アンケート	B	B	
			・児童生徒アンケート	A		
			・保護者アンケート	B		
	④ 自己肯定感等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。 自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート	B	B	
			・児童アンケート	B		
			・教師アンケート	B		
	<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月のアンケートや、日々の教育相談により、児童の悩みやいじめを早期発見し、組織的に対応することができた。 ・学校教育活動支援員、ハートなんでも相談員を含む教職員間で情報交換しながら、児童の人間関係を把握し、共通理解のもと指導することができた。 ・家庭学習強調週間(のびチャ)を通じて、生活習慣や学習習慣の改善について家庭と連携した取り組みができた。 ・自己中心的な言動をする児童や規範意識の低い児童が見られる。 <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月の生活目標について、学級や代表委員会で丁寧に話し合わせるにより、自分事として取り組めるようにする。児童が決めた目標に教職員も真剣に取り組むとともに、粘り強く指導する。 ・配慮を要する児童の支援の仕方について共通理解し、全教職員が同一歩調で、支援・指導に取り組む。 ・基本的な生活習慣や学習習慣の改善が必要な児童について、養護教諭やSSW、関連諸機関等と連携して家庭への啓発を行う。 					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス 仕事のやりがい重視しつつ、時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指して、教職員の意識改革に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	B C	B
	②	働きやすい環境づくり 新型コロナウイルス感染症5類感染症への移行後の業務改善に向けて、教育活動の回復や精選に慣例にとらわれることなく取り組んだ。 休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	C	
			・教師アンケート	B	B
③	他の教職員のサポート体制の充実	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課外活動は計画的で適切な運営ができています。 ・様々なキャリアステージの職員がそれぞれの役割を果たし、支え合い、チーム住吉としての取り組みができています。 ・時間外勤務が80時間を超える教職員が一定数あり、減少傾向が見られない。 <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議や研修会において終了時刻を設定し、全員が時間を守る意識を持って臨む。 ・優先順位を決めて業務に取り組む。 ・校務分掌等による業務量の偏りがないか検証し、チーム住吉として分担して業務に当たるとともに、スクールサポートスタッフや地域学校協働活動推進員・ICT支援員など様々な人材のより良い活用の仕方について検討する。 					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化 全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。 学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	B	B
			・教師アンケート	B	
			・保護者アンケート	A	
②	情報発信 家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	B	B	
		・保護者アンケート	A		
		・地域アンケート	B		
③	来校・相談体制 保護者や地域の方々が来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	B	B	
		・保護者アンケート	B		
		・地域アンケート	B		
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会や地域学校協働活動について、保護者や地域の理解が進んでいる。 ・地域学校協働活動推進員の交代によりこれまでの活動が滞らないよう引継ぎを確実にするとともに、新推進員のよりよい働き方ができる仕組みを構築する必要がある。 ・ホームページや学校通信による発信が不足している。 <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域教材や人材について総合的な学習の時間の年間指導計画に明記するとともに、地域学校協働活動推進員を通して、更なる地域教材・人材の開発を行い、より地域に根差した活動を目指す。 ・学校からの情報発信(HP・学校だより)に努める。 ・地域の力を学校教育活動に生かすため、もてころサポーターをより広く募集する。また、学校と地域が共通の理念を持って児童の育成に取り組めるように、地域学校協働活動に関する情報発信を行う。 					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満